

与えられました。そのうちの三人のお子さん、先に天に召されました。親として何よりもつらく、悲しいことだと思いません。けれども、ご夫妻は望みのうちに幻を見ていました。「三人の子どもたちは、今の神様のところにいる。やがてまた子どもたちと会う日が来る」という幻です。ご夫妻はこの幻を見つめつつ、悲しみの中から立ち上がって、なお教会の礼拝に通い続け神様を賛美しました。

ある時、ご夫妻に神様の霊、聖霊が働いて幻・夢を見ました。それは「この青山教会でこれからもずっと神様が賛美されますように。多くの人がこの教会にきて、神様と出会い、イエス様を信じる幸せを知ることができまますように」という幻・夢です。そしてご夫妻はこの教会の礼拝堂にパイプオルガンをお献げしました。

今年の四月のある日曜日、礼拝が始まる前にオルガンの調子がおかしくなりました。このオルガンは頑丈に造られており、こんなことは初めてでした。この日は止むを得ずピアノで讃美歌を歌いました。翌日オルガンの調律師が来て、原因を見つげるためにオルガンの中を開けました。いつもの調律では開けないところ

も開かれました。するとオルガンの下の部分に一枚のプレートがあり何か書いてあります。このプレートは普段は見ることができません。このような文字が刻まれています。

「私共は(中略)主の御恵みを感じし、その印としてパイプオルガン一基を献げます。 網野郡雄 やよひ」

「すべては神様の恵み」だということです。命も、家族も、財産もすべては神様が恵みによって与えてくださったものだから、神様に感謝してお献げします、ということです。楽しいこと嬉しいことばかりであった人の言葉ではありません。長い人生の中で多くの悲しみをご存知でありながら、神様を呪うのではなく、神様の祝福をいつも確信しておられました。このプレートの言葉はわたしたちも、ご夫妻のように、どんなつらいことがあっても、最後は神様の恵みに感謝することができるということを教えているのではないのでしょうか。

興味深いことにパイプオルガンという楽器は縦笛のように管に空気が吹き込まれると音が鳴ります。喉から声が出るのと同じです。そして、神様がわたしたちの魂に聖霊、命の息を吹き込んでくださ

ると、悲しい時も神様に慰められて、やがて立ち上がり、網野さんご夫妻のように幻を見、夢を見て、パイプオルガンが美しい音色を立てるように、わたしたちの魂は神様を賛美することができるようになるのです。

やよひさんは亡くなる前に葬儀の願いを教会に提出していました。次のような言葉が記されていました。

「主イエスは、わたしたちのために、苦しみを受けて、十字架を背負って死なれ、わたしたちを生かしてくださいました」
「どうぞ、家族が、すべての人が、わたしたちは神さまによって、生かされることを知ることができまますように！」

青山教会に神様が今、見せてくださっている幻・夢があります。新しい会堂をお献げすることです。これはわたしたちだけの願いではなく、これまでこの教会で神様を賛美して生き、天に召された方々の見ていた幻・夢なのです。先ほど聖歌隊が歌った讃美歌の歌詞の言葉のように祈りましょう。

「来れ聖霊よ、われらの心に
造られしものを満たせ、恵みもて」
(ペンテコステ・大人と子どもの合同礼拝説教要旨)